(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3163860号
(U3163860)
(45)発行日　平成22年11月4日(2010.11.4)　(24)登録日　平成22年10月13日(2010.10.13)

(51)Int.Cl.　F I
A41D 13/12 (2006.01)　A41D 13/12

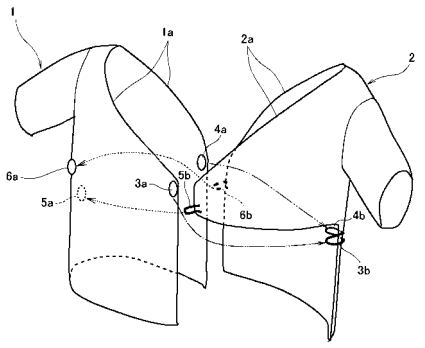
評価書の請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　実願2010-5651(U2010-5651)
(22)出願日　平成22年8月24日(2010.8.24)

(73)実用新案権者　510215994
坂口　三奈子
東京都町田市南成瀬１－３－２カウンテス
コート５２３
(74)代理人　100093034
弁理士　後藤　隆英
(72)考案者　坂口　三奈子
東京都町田市南成瀬１－３－２カウンテス
コート５２３

(54)【考案の名称】着脱容易衣服

(57)【要約】　（修正有）
【課題】簡易な構成によって、着衣又は脱衣の動作における容易性及び負担軽減性を良好に得ることを可能とする着脱容易衣服を提供する。
【解決手段】別個に形成した左側身頃１及び右側身頃２を、被着者の体側相当位置に設けた係合手段によって連結する構成としたことによって、被着者が横になっていても係合手段の連結・解除の操作が被着者の体側相当位置で容易に行われる。また、係合手段を解除して左側身頃１と右側身頃２とを両側に引っ張ることにより、上体被着部及び下体被着部の双方の脱衣が容易化されるとともに、左側身頃１及び右側身頃２における背中相当部分の傾斜襟端縁１ａ、２ａによって被着者が横になっている場合の負荷を軽減する構成とした。
【選択図】図３



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
被着者の胴部分を覆う上体被着部と、前記被着者の下肢部分を覆う下体被着部と、からなる着脱容易衣服において、
前記上体被着部及び下体被着部の各々が、前記被着者の左右両側にそれぞれ対応して着衣される左側身頃及び右側身頃を備えたものであって、
それらの左側身頃及び右側身頃が、前記被着者の左右方向に互いに分離可能となるように別個に形成され、かつ前記被着者の体側相当位置に配置された係合手段によって連結・分離可能となるように構成されているとともに、
前記左側身頃及び右側身頃は、前記被着者の身長方向に対して傾斜して延在する襟端縁を有していることを特徴とする着脱容易衣服。
【請求項２】
前記係合手段が、互いに連結・分離可能な関係を有する弾性ゴムとボタンとから構成されていることを特徴とする請求項１記載の着脱容易衣服。
【請求項３】
前記下体被着部の左側身頃及び右側身頃が、前記被着者の両脚に対応して左右に分離可能となるように形成されていることを特徴とする請求項１記載の着脱容易衣服。
【請求項４】
前記下体被着部の左側身頃及び右側身頃には、前記被着者の内股相当位置に所定長の切込みが形成されていることを特徴とする請求項１記載の着脱容易衣服。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、身体的に不利な高齢者や病人やその介護者等が容易に着衣又は脱衣するための着脱容易衣服に関する。
【背景技術】
【０００２】
近年、介護や看護の問題が注目されているが、介護や看護を円滑に行う上で機能的な衣服を着衣していることは、被介護者及び介護者の双方にとって極めて重要である。すなわち、従来においては、介護を必要とする高齢者や病人のような身体的に不利な人々に対しても、健常者と同様な衣服が使用されている。そのため、例えば寝た状態での着衣又は脱衣を行う際に、被介護者が起き上がる努力をしなければならず、また介護者も被介護者の体を支えることが必要となる。特に、起き上がらせることができない重症の被介護者等の場合には、着衣又は脱衣の動作に非常に大きな労力を要することとなって介護負担が大きくなっている。
【０００３】
このような事情から、パジャマの代わりに着せ替えが容易な浴衣を寝巻として使用したり、通常の衣服のボタンをファスナーに置き換えた衣服や、前後身頃袖を左右にはだけさせるように構成された衣服も提案されているが、それら従来の衣服は、着衣又は脱衣の動作に関して未だ十分な容易性を備えておらず、また被介護者本人及び介護者の労力も十分に低減されていないのが現状である。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００１－９８４０３号公報
【特許文献２】特開平８－２２６００４号公報
【特許文献３】実用新案登録第３１２１１９５号公報
【特許文献４】実用新案登録第３１３２５６５号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】

【０００５】
そこで本考案は、簡易な構成によって、着衣又は脱衣の動作における容易性及び負担軽減性を良好に得ることが出来るようにした着脱容易衣服を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記目的を達成するため本考案においては、被着者の胴部分を覆う上体被着部と、前記被着者の下肢部分を覆う下体被着部と、からなる着脱容易衣服において、前記上体被着部及び下体被着部の各々が、前記被着者の左右両側にそれぞれ対応して着衣される左側身頃及び右側身頃を備えたものであって、それらの左側身頃及び右側身頃が、前記被着者の左右方向に互いに分離可能となるように別個に形成され、かつ前記被着者の体側相当位置に配置された係合手段によって連結・分離可能となるように構成されているとともに、前記左側身頃及び右側身頃は、前記被着者の身長方向に対して傾斜して延在する襟端縁を有する構成が採用されている。
【０００７】
このような構成を有する本考案によれば、左側身頃と右側身頃とを連結している係合手段の連結・解除の操作が、被着者の体側相当位置で行われるため、その被着者が横になっていても連結・解除の操作が容易に行われる。そして、係合手段を解除した後には、左側身頃と右側身頃とを左右両側に引っ張ることによって、被着者の胴部分を覆う上体被着部と下肢部分を覆う下体被着部との双方の脱衣が容易に行われる。
【０００８】
また、左側身頃及び右側身頃における背中相当部分の傾斜襟端縁によって、被着者が横になっている場合の負荷が左右上下にわたって分散され、これによっても被着者の負担が軽減される。
【０００９】
また、本考案においては、前記係合手段が、互いに連結・分離可能な関係を有する弾性ゴムとボタンとから構成されていることが望ましい。
【００１０】
このような構成を採用すれば、ファスナーやマジックテープ（登録商標）などの他の係合手段に比して、被着者における連結・解除の操作の負担が軽減される。
【００１１】
また、本考案においては、前記下体被着部の左側身頃及び右側身頃が、前記被着者の両脚に対応して左右に分離可能となるように形成されていることが望ましい。
【００１２】
また、本考案における前記下体被着部の左側身頃及び右側身頃には、前記被着者の内股相当位置に所定長の切込みが形成されていることが望ましい。
【００１３】
このような構成を採用すれば、緊急の場合に、切込み部分を利用して用を足すことが可能となる。
【考案の効果】
【００１４】
以上の通り本考案は、別個に形成した左側身頃及び右側身頃を、被着者の体側相当位置に設けた係合手段によって分離可能に連結し、かつ被着者の背中相当部分に身長方向に傾斜して延在する襟端縁を設けたことによって、被着者が横になっていても左側身頃と右側身頃とを連結している係合手段の連結・解除の操作が被着者の体側相当位置で容易に行われ、係合手段を解除して左側身頃と右側身頃とを両側に引っ張ることにより、上体被着部及び下体被着部の双方の脱衣が容易化されるとともに、左側身頃及び右側身頃における背中相当部分の傾斜襟端縁によって被着者が横になっている場合の負荷を分散して被着者の負担を軽減する構成としたものであるから、簡易な構成によって、着衣又は脱衣の動作における容易性及び負担軽減性を良好に得ることが出来、特にこれからの高齢化社会における介護や福祉に大いに寄与し得る。

【図面の簡単な説明】
【００１５】
【図１】本考案の一実施形態にかかる着脱容易衣服の上体被着部に関する構造を表した正面説明図である。
【図２】図１に表した着脱容易衣服のの上体被着部に関する構造を表した背面説明図である。
【図３】図１及び図２に表した着脱容易衣服の上体被着部を左右に分離して表した外観斜視説明図である。
【図４】本考案の一実施形態にかかる着脱容易衣服の下体被着部に関する構造を表した外観斜視説明図である。
【考案を実施するための形態】
【００１６】
以下、本考案を、介護用又は看護用の着脱容易衣服に適用した具体的な実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。
【００１７】
図１～図３に示されている本考案の一実施形態にかかる着脱容易衣服の上体被着部は、当該着脱容易衣服の被着者における胴部分を覆うように構成されたものであって、被着者を左右両側から覆う左側身頃１及び右側身頃２を備えている。これらの左側身頃１及び右側身頃２は、被着者の左右方向に分離可能となるように別個のものとして形成されており、被着者の内方側に相当する部位が開放状態になされていることによって被着者の上半身を外方側から覆う構造になされている。
【００１８】
これらの左側身頃１及び右側身頃２の各々は、被着者の片側上腕部を貫通させるとともに、片側肩部を前後から覆うように形成されており、肩部の内側端縁に形成された襟端縁１ａ，２ａが、被着者の前後において身長方向に対して傾斜して延在するように形成されている。
【００１９】
それらの襟端縁１ａ，２ａの傾斜延出端（下端）には、係合手段３，４，５，６がそれぞれ設けられている。この係合手段３，４，５，６は、互いに連結・分離可能な関係を有する弾性ゴム３ａ，４ａ，５ａ，６ａとボタン３ｂ，４ｂ，５ｂ，６ｂとから構成されていて、被着者の体側相当位置に配置されている。そして、その係合手段３，４，５，６を嵌合して固定させることによって、左側身頃１及び右側身頃２同士が連結されて着衣状態となり、また係合手段３，４，５，６を解除することによって脱衣状態となる。このように係合手段３～６を、互いに連結・分離可能な関係を有する弾性ゴム３ａ～６ａとボタン３ｂ～６ｂとから構成しておけば、ファスナーやマジックテープ（登録商標）などの他の係合手段に比して、被着者における連結・解除の操作の負担が軽減される。
【００２０】
また、特に本実施形態にかかるボタンとしては、ホール型のものではなく湾曲表面を有するものが採用されているため、連結・分離の操作が片手で安全・確実に行われるようになっている。
【００２１】
さらに、本考案の一実施形態にかかる着脱容易衣服の下体被着部は、当該着脱容易衣服の被着者における下肢部分を覆うように構成されものであって、図４に示されているように、被着者を左右両側から覆う左側身頃７及び右側身頃８を備えている。これらの左側身頃７及び右側身頃８は、被着者の左右方向に分離可能となるように別個に形成されており、被着者の内方側に相当する部位が開放状態になされていることによって被着者の片脚ごとに通されて下半身を覆う構造になされている。
【００２２】
この下体被着部における左側身頃７及び右側身頃８は、被着者の腰相当位置からくるぶしの近傍まで延在しており、被着者の内股相当位置には所定長の切込み７ａ，８ａが形成

されている。このようにしておけば、緊急の場合には、切込み部分を利用して用を足すことが可能となる。

【００２３】

これらの左側身頃７及び右側身頃８の各々は、上述したように被着者の片側脚部を貫通させるように形成されており、被着者の腰相当位置に、係合手段９，１０が設けられている。この係合手段９，１０は、互いに連結・分離可能な関係を有するマジックテープ（登録商標）から構成されていて、その係合手段９，１０を接続させることによって、左側身頃７及び右側身頃８同士が連結されて着衣状態となり、また係合手段９，１０を解除することによって脱衣状態となる。

【００２４】

このような構成を有する本実施形態によれば、左側身頃１と右側身頃２とを連結している係合手段３～６の連結・解除の操作が、被着者の体側相当位置で行われるため、その被着者が横になっていても連結・解除の操作が容易に行われる。そして、係合手段３～６及び係合手段９，１０を解除した後には、左側身頃１，７と右側身頃２，８とを左右両側に引っ張ることによって、被着者の胴部分を覆う上体被着部と下肢部分を覆う下体被着部との双方の脱衣が容易に行われる。

【００２５】

また、左側身頃１及び右側身頃２における背中相当部分の傾斜襟端縁１ａ，２ａによって、被着者が横になっている場合の負荷が左右上下にわたって分散され、これによっても被着者の負担が軽減される。

【００２６】

以上、本考案者によってなされた考案を実施形態に基づき具体的に説明したが、本実施形態は上述した実施形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変形可能であるというのはいうまでもない。

【００２７】

例えば、上述した実施形態は、介護用又は看護用の衣服に本考案を適用したものであるが、健常者が身に付ける通常の衣服に対しても同様に適用することができる。

【産業上の利用可能性】

【００２８】

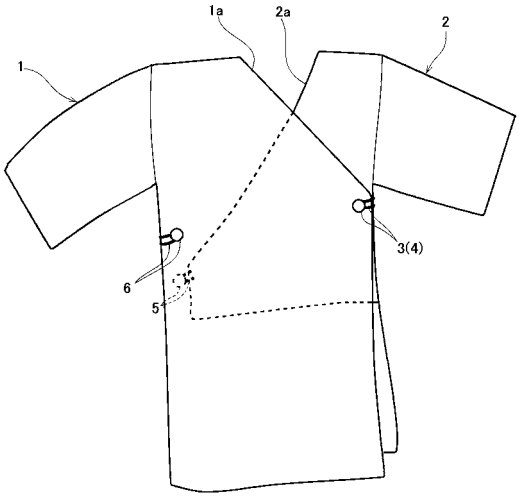
以上のように本考案は、多種多様な衣服に対して広く適用することが可能である。

【符号の説明】

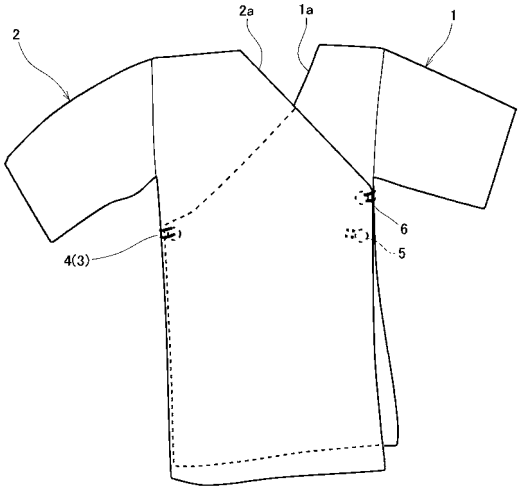
【００２９】

１　上体被着部の左側身頃
２　上体被着部の右側身頃
１ａ，２ａ　傾斜襟端縁
３，４，５，６　係合手段
３ａ，４ａ，５ａ，６ａ　弾性ゴム
３ｂ，４ｂ，５ｂ，６ｂ　ボタン
７　下体被着部の左側身頃
８　下体被着部の右側身頃
７ａ，８ａ　切込み
９，１０　係合手段（マジックテープ（登録商標））

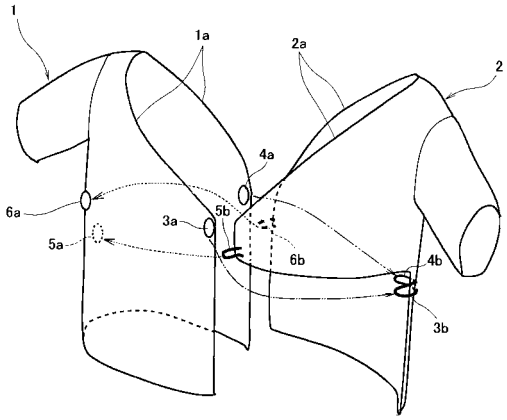
【図１】


1a
2a
2
1
3(4)
6
5

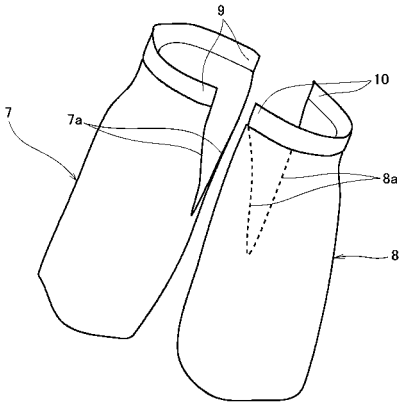
【図２】


2a
1a
1
2
6
5
4(3)

【図３】


1
1a
2a
2
4a
6a
3a
5b
5a
6b
4b
3b

【図４】


9
10
7
7a
8a
8